

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活共同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	法人は複数の診療所と介護事業を展開している医療生活協同組合で、当事業所はH19年11月に開設した小規模多機能型居宅介護である。同一の敷地内に介護付有料老人ホームと特別養護老人ホームが併設されています。また協力医療機関である、ながおか生協診療所や隣接の事業所と密に連携を図って、ご利用者が安心して暮らせるようにしています。
事業所名	プラット高町	管理者	清水 昭子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	1人	2人	1人	1人	1人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>●毎月の部署会議にて職員の不安や疑問を話し合う場を作ると共に改善計画も進捗状況を確認し、実施する。</p>	<p>・全員の職員が参加するため議題(例・登録者数が増えることにより1日の入浴者数が多くなる。スムーズに入浴できるようにして頂くためにどのように対応していくか)に対し意見も出やすく、決定事項を周知でき、すぐに行動に移せた。また、次の会議時に振り返りもできた。</p> <p>・ご利用者の様子報告に時間がかかり、他のご利用者の様子、対応の検討や外部評価の改善計画は報告するだけの会議になってしまうこともあった。</p>	<p>・多くの項目が前回より下がっているように思います。職員の異動等もあり、毎年上がっていくとは限りませんが、少しでも評価が上がるような取り組み(具体的な改善計画)が出来ると思います。できていない点には改善しなければならない内容があると思います。</p>	<p>○部署会議にて出た意見、決定事項は3日以内には対応できるように周知、振り返りは次の部署会議で行うなど時間を空けずに実施する。</p> <p>○外部評価の今回の改善計画は3ヵ月に1回状況確認を行う。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>●ホールや玄関などの壁面に季節に応じた飾りつけをご利用者と一緒に行うことで心地よい空間を作っていく。</p>	<p>・インパクトのある壁画(花火やハロウィン)をご利用者のよく見える位置に飾ったことで目に留まりやすく、話しの種になった。</p> <p>・作業の内容によっては難しい、出来ないご利用者も居たため皆さんが参加できるようなものを作るとよかった。</p>	<p>・季節や年中行事を感じられる飾りつけで心が和みます。</p> <p>・ご家族とご利用者と分けてアンケートをしたことは大変良かったと思います。同じような質問の利用者と家族との差は何を意味するのかと考えることで、見えてくる課題があるのではないのでしょうか。</p>	<p>○装飾担当者を振り分け、作品作りを計画的・具体的(誰にどんな作業を行ってもらかなど)に行う。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<p>●地域の方に定期的に回覧している「高町だより」の他に事業所独自のPR誌を作成、回覧することで身近な事業所である事を継続してアピールしていく。</p>	<p>・高町町内に向けての回覧板は継続して行っている。防災訓練を機に地域の方より車椅子講習会の講師依頼がきたりして地域と関わりを持つことで事業所のアピールが出来ている。</p> <p>・コロナ禍のため営業活動がなかなか出来ず。前年に作成したチラシを使用中である。また、FAX営業も検討中。</p>	<p>・山通りの人に事業所は知られています。「あそこの人が行っている」等近くの施設として地域の人との会話に出てきます。</p> <p>・コロナ禍で地域との関わりが難しい状況となっていますのでやむを得ないことありますが「できている点」にあるような講習会の講師などは積極的に引き受けたいと思います。例えば食事制限のある方の食事の工夫の仕方やちょっとした介護のコツみたいなものを回覧等で発信して困ったことがあったら頼りになる施設と気付いてもらえるといいのではないのでしょうか。</p>	<p>○高町だより(年4回町内回覧板にはさむ)は継続して行う。</p> <p>○事業所独自のチラシは具体的(専門者からのアドバイス等)に分かりやすい内容にし、高町だよりとは別に回覧板、又はチラシ配布、コミセンや公民館に掲示していただけるようにする。またそれは定期的に作成していく(年3回)</p>

<p>D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>●地域のイベントには積極的に参加していく。また、小学生との交流も新しいやり方を考えながら実施する。</p>	<p>・地域のコミセン祭りに作品を出展、4日間連日ご利用者と見学に行くことが出来た。子ども達や他の作品出展者からプレゼントをもらったりして交流ができた。 ・地域のイベントだけでなく、事業所周辺を散歩することだけでもご利用者が地域の方と接することが出来るかもしれないと考える。</p>	<p>・コロナ禍でもできることを探し地域に向いています。コロナ禍が今後も続くのでこの取り組みを継続していただきたい。</p>	<p>○地域のイベントに参加する(11月作品展、12月小学生との交流) ○町内と事業所合同で講習会の企画実施を目指す(車椅子講習会、腰痛予防、口腔ケアなど)</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<p>●委員の方の意見や、他法人の取り組み等を参考にして自事業所の取組みに活かす。</p>	<p>・困りごと(虐待疑い等)は自事業所だけで考えず、他の事業所や地域包括等に報告、相談しアドバイスをもらっている。 ・コロナウイルス関係で会議の開催が難しく、書面開催となってしまい、踏み込んだ話しに至らなかった。</p>	<p>・対面での会議は難しいですが、事業所の取組みや委員から「こんな意見が欲しい」という事でもよいと思います。会議の資料は利用状況や事故、研修、行事だけでなく、例えば事業所内でのミーティング等ででた職員の意見や質問などを皆さんにお聞きするような内容はどうでしょうか。日頃の事業運営の中で事業所の方から委員に意見を求めても良いように思います。</p>	<p>○定期的に委員の方へ事業所の様子をお知らせする(写真、チラシ等) ○事例を提示し、委員の方に意見を求める(年3回)</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>●災害訓練に参加いただけるよう案内を行う。協力体制を互いに確認しあい連携できるように詳細を決め、体制を整える。</p>	<p>・事業所の防災訓練時、地域の方6名に参加していただいた。2F公民館の防火管理者とも顔合わせが出来たため、連絡体制の確認も出来た。 ・地域の方より車椅子の操作が難しいと意見が出ていたためか?地域の災害訓練へ事業所職員の参加の声を掛けていただいている。</p>	<p>・3施設合同で防災訓練がきちんと実施され、写真でも様子が伝えられました。いざという時に動きが身につけていることが期待されます。 ・避難訓練は、様々な災害等によって違うと思いますので、どんな災害等でも対応できるようにして下さい。</p>	<p>○町内の方には引き続き防災訓練の参加を依頼する。 ○雪害時の連絡体制を確認していく。</p>